

令和5年度 第2回学校運営協議会議事録

校名 大阪府立野崎高等学校

校長名 田中 眞

開催日時 令和 5年 12月 7日(木) 15:00～ 16:30

開催場所 野崎高校校長室

出席者(委員) 中畷会長、山崎副会長、長谷委員、尾崎委員、梅本委員、松田委員

出席者(学校) "田中校長、勝村教頭、西田教頭、伊丹事務長、森本首席、宮脇首席"
議事録作成：西尾

傍聴者

協議資料

資料1 大阪府立野崎高等学校学校運営協議会 実施要項

資料2 大阪府立野崎高等学校学校運営協議会 名簿

資料3 授業評価アンケートの結果について

資料4 生徒の困り感に寄り添う校内セーフティネット

資料5 ～進路支援部～野崎高校の進路指導について

資料6 令和5年度「体験入学会 チャレンジ野崎」実施結果

資料7 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

備考

議題等(次第順)

1. 開会
2. 第1回授業アンケートの結果と傾向について
3. 就学支援について
4. 進路指導の状況について
5. 広報活動について
6. その他

1. 開会

中嶋会長より

校長より

野崎高校を正しく認識する声や、応援する声が確実に増えている。

2. 第1回授業アンケートの結果と傾向について

【事務局より】

- 教員数が少ないことから、一名の教員の数値が突出することで、大きく平均値が変わってしまうため、これをもってのみで判断することは難しい。
- 全教員の授業見学から
 - ・ICTの活用方法や生徒とのコミュニケーションが上手な先生は総じて評価が高い。
 - ・机間巡視の際にできてない面を指摘してしまいがちであるが、できている面の声掛けをおこなうことをお願いしている。

3. 就学支援について（資料4）

【事務局より】

第一回の資料から、個別の支援計画やCCなどのセーフティネットの図を追加。

4. 進路指導の状況について（資料5）

【事務局より】

- ・高卒の就職定着率が悪いと報道されている中、野崎高校では3社の応募前職場見学に教員が付き添って行っている。マッチングミスを防ぐ方法として継続。
- ・今年度も就職は順調。
- ・大阪産業大学と高大連携を締結し、通常の推薦以上の枠をもらっている。

《委員より》

- ・直近の就職定着率はどうなっているか。
【事務局】数字は出せていないが、定着ができていない生徒の面談は卒業後も行っている。
- ・求人数の多さに驚いている、例年このぐらいか。
【事務局】教員が企業訪問に行っているが近年1.5倍が続いている。
- ・この求人数はとても多い、もっとアピールできるポイントになるのではないか。

5. 広報活動について（資料6）

【事務局より】

11月18日にチャレンジ野崎を実施。69名が参加。

- ・ここ数年で一番少ない参加者になった。アンケートの「野崎高校を受験しようと思っているか」の項目に「はい」と答えてくれた人の割合は高い。今年は57%が「受験しようと思っている」と回答し、昨年度より多い。
- ・中学校教員の意見や要望が非常に重要。今年度は割合が少ないので、中高連絡会で中学校の先生に再度広報を実施。
- ・参加者の満足度は高い。先輩や教員と交流する時間が大切。
- ・当日の在校生の欠席が多い。（3分の1程度が欠席）
- ・ここ数年東大阪市、大阪市、枚方市の参加者、入学者が増加。かわち野高校の閉校も影響していると推測できる。

【事務局より】

- ・大東市広報誌の裏表紙に文化祭の様子が掲載された。
- ・サンケイリビング中学生新聞の冬号に掲載。大阪府内の全中学校に配付されている。

《委員より》

野崎高校は手話教育に熱心なイメージ。

野崎高校から各中学校にプレゼンできないか。

- 【事務局】：・出前授業には呼ばれているが継続したものにはなっていない。
・コロナ前は生徒会中心でスマホサミットとして小学校や中学校へ訪問していた。
・コロナ後は生徒会役員が集まらない。生徒会も定員が充足していない。

- 【事務局】：来年度は生徒数減の影響もあり、社会福祉が開講できない。そのため、家庭科の中で「社会福祉」が継続できるよう計画している。

《委員より》

体験入学会は厳しい状況がある。

中学校の意見や要望を聞いてすり合わせをしていく必要がある。また、通信制や私立高校の志望者増はどうなっているのか。

《委員より》

価値観とシステムが変わってきたのは事実。学区制が廃止になり、いろんな学校を選択できるようになった。また、不登校の問題が大きく、規模の大きい学校ではなく、規模の小さい学校を志望する人が増えている。また、私学の志望者も確実に増えている。

《委員より》

- ・機能統合の誤った情報が広まっているのではないか。
【事務局】：中学校訪問に行っても閉校などの誤った情報をもっている。
- ・校長が広告塔なのは間違いないが、教員も中学校を訪問すべきである。

6. その他、協議

《委員より》

実際、野崎高校に「入学してよかった」と思う面は何なのか。それをもっとアピールしていくべきではないか。

【事務局】：夢を追える、進路を選ぶことができる道がたくさんあり、先輩も多数いる。

【事務局】：教員の「優しさや熱意」は本当に感じる。

《委員より》

やりたいことを伸ばしてもらえれば良い。やりたいことが無い生徒には実際に（会社を）見学をすべきである。たとえば、自分の会社でも高卒が続かない。学校側が後押しするならば、企業も積極的に採用する気になる。野崎高校の先生は（生徒に）寄り添ってくれているので、是非とも取り組んでいただきたい。

《委員より》

日本の企業には日本の子どもたちが成長できるようになってほしい。

《委員より》

不登校が多い。タブレットで授業を受講すれば「出席扱い」となれば、学校の意義はどうなるのか。（学校に）行かなくても自宅で勉強できるからいいという家庭が多くなっている。毎日学校に行かなくても良いとなれば、よりよい学校運営はできない。今後、学校はどのように取り組んでいくのか。

【事務局】野崎高校では（生徒が）学校に居場所を作る取り組みをしている。30%程度が中学校時に不登校の生徒だが、がんばって学校に来ている生徒は多い。

○閉会の挨拶

校長より

次回の会議日程

日時 令和 6年 2月上旬

会場

本校 会議室（予定）